

全員が被災者で、全員が支援者



1



2



3



4

1_住民同士が協力して避難所用テントを組み立てる /2_避難所の受付で避難者の家族構成や怪我の状況などを聞き取る /3_災害時手話ボランティア養成講座の受講生などが、避難者のろう者と手話でコミュニケーションを取る /4_携帯電話が使えなくなったときを想定し、東温アマチュア無線クラブが市内各所と通信訓練を実施



特集 迫る大地震。生き抜くためには



東温市はどうなる？

今、この瞬間に起こるかもしれない南海トラフ巨大地震。市内では、地盤の柔らかい谷や重信川沿いで震度6弱、地盤の硬い山地部で震度5強の揺れが予想されており、さらに地盤の条件によっては、最大震度6強のおそれがある。平成25年度の県地震被害想定調査結果では、建物倒壊等で最大126人が死亡し、ライフラインも甚大な被害を受けることが予想されている。

経験したことのない甚大な被害が予想される南海トラフ巨大地震が迫る中、生き抜くためには、自分で自分の命を守る「自助」、地域で助け合う「共助」、行政による「公助」の3つがうまく機能することが重要だ。

命を救う「人」の力

阪神・淡路大震災では多くの家が倒壊したが、助かった人の8割が自力又は地域の人たちによって救助された。また、能登半島地震では、多くの集落が孤立したが、救援物資が届くまでの間、地域で備蓄していた災害時の物資で凌ぐことができた。大規模災害時は、こうした「自助」と「共助」が命を救う鍵となる。

市では、物資を備蓄し、避難所の環境を整備し、関係機関との協力体制を築くなど、「公助」の力を鍛えている。しかし、災害の規模が大きいと、その分負傷者や支援が必要な人は多くなり、「公助」が十分に行き届かなくなるおそれがある。そのとき、「自助」、そして「共助」が命を繋ぐのだ。

「共助」の力を鍛える

災害時に互いに助け合うためには、訓練や顔の見える関係づくりが欠かせない。10月26日①に行った市総合防災訓練では、南海トラフ巨大地震を想定し、ツインドーム重信を避難所として、地域住民主体の訓練を行った。まず、先に避難してきた地域住民が、テントや簡易ベッドなどを設置。続いて、避難してくる人の受付や案内をし、怪我人がいれば応急手当を実施。避難所の外では、初めての試みとして、ペット同行避難の受付や、ドローンによる孤立集落を想定した物資運搬訓練などを行った。避難所運営に携わった地域住民からは、「もっとこうすれば…」という提案が次々生まれ、参加者同士で話し合う場面も多く見られた。

平成25年度県地震被害想定調査結果（最終報告）から一部抜粋
南海トラフ巨大地震発生時の東温市の予想最大震度と最大被害
（地震規模の想定…マグニチュード9.0）

最大震度	6強		
建物被害	全壊倒数	4,286 棟	
	半壊倒数	4,391 棟	
人的被害	死者数	126 人	
	負傷者数	1,277 人	
	避難所への	1 日後	3,199 人
	避難者数	1 週間後	5,938 人

	地震直後	1 日後	1 週間後	1 か月後
断水率	97.7%	97.0%	90.7%	41.7%
	地震直後	1 日後	2 日後	7 日後
停電率	98.7%	79.2%	58.8%	5.0%

まずは
防災マップを
確認



後悔しないよう
今、できる備えを

避けられない大災害。
しかし、私たちは「備え」
することで、被害を最小限
に抑えることができる。
水や食料品の備蓄、家具
の固定、家族との話し合
い、地域の防災訓練への参
加、近所の人との関係性
づくりなど、どれも命を
守るための大切な一歩だ。
「ここ数年、東温市では大
きな地震はないし、大丈
夫だろう」、「津波が来な
いから心配ない」こうした
心の隙を突くように、大
災害は突然やってくる。そ
のときになって後悔しない
よう、今、この瞬間から
できることを始めよう。



ペットと一緒に避難所へ



地域住民で避難所を設営



訓練が話し合いの機会に

訓練での「気付き」が地域を強くする

市総合防災訓練に参加した皆さんに、お伺いしました。

1週間生き延びられますか？

▶ 2種類の非常用持出袋を用意しましょう。

- ①地震による建物倒壊や火災で、家からすぐ逃げるときに持ち出すための「3日分」
- ②救援物資が届くまで、家や避難所で生活するための「1週間分」

▶ ローリングストック方式で備蓄しましょう。

備蓄は、普段食べている食品の「買い置き」から始めましょう。保存性が高く美味しいもの（レトルト食品や缶詰など）を選び、賞味期限が近いものから計画的に使い、消費した分を買い足すようにしましょう。

防災行政無線、聞こえますか？

▶ とうおんアプリで聞くことができます。



▲ iPhone



▲ Android

とうおんアプリでできること

- ・防災行政無線の音声聞く。
- ・市からの緊急情報を受け取る。
- ・市の防災マップを確認する。
- ・災害時に役立つリンク集を確認する。

防災特化
アプリ



消防団女性部の
皆さん

繰り返すことが大切

避難してきた怪我人の応急手当の補助などを行いました。私たちは毎年訓練に参加していますが、参加する度に新たな課題が見つかります。一度きりの訓練で終わらずに、反省点を次に活かして訓練を繰り返すことが大切だと思います。

志津川南区自主防災会
会長 岡本 隆 さん



住民同士で話す機会に

若い人を中心に、小学生から大人までが協力して避難所用のテントやトイレを組み立てました。訓練中には、住民同士で志津川南区の防災の課題について話したり、「次はこうしたらいいよね」と提案をいただいたりと、非常に実りの多い訓練となりました。

家具等の固定器具、感震ブレーカーの購入費を補助します

▶ 補助対象機器

- ①家具等固定器具
つっぱり棒タイプ、ベルトタイプ、耐震マットタイプ、戸棚等開閉防止ストッパー、キャスターストッパー、飛散防止フィルムなど



- ②感震ブレーカー
地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める機器

▶ 補助金額

家具等固定器具と感震ブレーカーそれぞれの購入及び設置費用の4分の3
※ただし、補助上限額は以下のとおりです。

- ①家具等固定器具 上限 15,000 円
- ②感震ブレーカー 上限 15,000 円
- 1世帯当たりの上限 30,000 円

▶ 申請期限

令和8年3月16日⑤まで
申請方法など詳しくは右記二次元コードから市HPをご確認ください。
⑤危機管理課 ☎ 964-4483



▲市HP



認定 NPO 法人
えひめイヌ・ネコの会
代表 高岸 ちはり さん

大切なペットの命を守るために

避難所の外で、ペットの同行避難※の受付シミュレーションや飼い主に必要な備えの説明を行いました。

災害時は、行政を含め全ての人が被災者です。ペットの同行避難の対応も行政任せではなく、各避難所が主体的に運営していかなければなりませ

ん。また、飼い主はペット用避難グッズの準備やノミ・ダニ駆除、ワクチン接種、狂犬病予防注射など、平常時からきちんと済ませておく必要があります。

今回の訓練をきっかけに、地域の皆さんや飼い主は、平常時からペットの避難について考えていただければと思います。

※ペットの同行避難…災害時に飼い主が飼育しているペットを同行し、避難所まで安全に避難すること。